

釧路湿原自然再生協議会
第19回再生普及小委員会
議事要旨

平成24年6月14日開催

■ **再生普及行動計画ワーキンググループの経過報告について**

事務局より再生普及行動計画ワーキンググループの経過報告が行われた。内容は、昨年度のワンダグリンドプロジェクト2011の活動報告と、今年度の取り組み予定を中心に説明がなされた。

高橋委員長

今年度の再生普及行動計画ワーキンググループ活動予定について承認願いたい。ワンダグリンドプロジェクトは4月から自主的に動いている。前年度に翌年度の予定を決めて翌年度は年度の当初から動けるような形で進めていきたい。

松本

4月からスタートすることに問題がなければそうしたほうが良い。

高橋委員長

前回の小委員会は12月に行われた。例えばこの時に翌年度のワンダグリンドの活動を決めて2月から募集を開始して4月からスタートする、経過をこの小委員会で報告する、というような形を検討していきたい。

■ **環境教育ワーキンググループの経過報告について**

事務局より環境教育ワーキンググループの経過報告が行われた。内容は、昨年度の取り組み報告と、今年度の取り組み予定を中心に説明がなされた。その後委員による意見交換と検討が行われた。

■ **自然再生と地域産業の連携について**

事務局より自然再生と地域産業の連携の取り組みの一つとして、鶴居村を題材に、湿原流域をキーワードにしたガイドマップの作成について、説明が行われた。その後委員による意見交換と検討が行われた。

高橋委員長

再生事業と観光や産業や農業とをつなぐ形のマップ作りを進めている。

柴田

なるべく沢山の方が関わられるようなガイドマップ作りを進めていって欲しい。

久保田

自然再生事業と地元の産業との関係を作っていくことを目標として持つ必要があると感じた。

高橋委員長

タンチョウ保護研究ではタンチョウと鶴居村の住民とにどのような関係があると感じているか。
百瀬

鶴居村では農業の形が変わってきて経済状態も過渡期であり、タンチョウとの関係も一口では
いえない状況である。

井上

以前に観光との連携を行うグリーンツーリズムやアグリツーリズムが出来たが、鶴居に入って
きた人たちが中心でやっており、地元にいる人とのギャップがある印象を受けた。

高橋委員長

そういう中で地元の人達で共同事業という形でマップを作っていきたい。

大林

ガイドマップを作るときにタンチョウに対してのルール作りが必要と思っている。

ガイドマップ作りが自然再生と農林水産業や酪農業やエコツアー会社などとの連携のきっか
けになればと考えている。

杉澤

私はエコツアーガイドをする事もあるが、自然保護の点でこれを紹介していいかどうか常に迷
う。ガイドマップ作りでは自然保護を意識してもらえるような説明は必ず入れるようにした。

本などで紹介されているグリーンツーリズムとかアグリツーリズムの事例には、その地域での
ポリシーがあるように思う。鶴居村のグリーンツーリズムについてはそのへんを研究した方が良
いと思う。

渡辺

自然再生と産業との連携には、企業にとってインセンティブがなければ広がらないと思う。

高橋委員長

農業や酪農といきなり連携するのではなく、まずは鶴居村で観光の振興を図りたいという人達
との連携で進めていくことになるかと思う。

ガイドマップについては事務局、鶴居村、鶴居村観光協会の方々の共同作業として今年度のス
ケジュールに沿って進めていきたい。

渡辺

取りまとめ役は置かないとなっているが、参加したい人は手を上げてくださいというレベルで
成り立つのか。

事務局

委員会とかワーキンググループのようなイメージではなく、フラットな形で再生事務局と鶴居
村と観光協会が事務局のような形で動かしていきたいと考えている。

渡辺

実際にマップを作るのは誰か。

事務局

事務局で誰かに委託して作ってもらう形になると思う。

高橋委員長

これがGOサインがでたら、この委員会の中で参加していただける方を募るといって移行し
ていきたい。

松本

マップを今年度中に、たった5回のミーティングで作成するのは難しいと思う。そこまでゴールを設定しなくていいと思う。

事務局

いろいろ話し合っていく中で、まだ無理ということであれば期間を伸ばすことはあり得ると思う。

松本

産業との連携は非常に大事だと思う。それなりに時間を掛けてやって欲しい。

百瀬

鶴居村がターゲットになっているが、本来は標茶町や阿寒地域も一緒にやって行くべきだと思う。それが出来ない場合は各市町村にせめて理由を説明すべきだ。

事務局

各市町村には、今は鶴居村だが今後は広げていくという話はしている。しかし、そういうところはもう一度話をしていかなければならないと考えている。

鶴間

ガイドマップは毎年作成するのではなく、区切りをつけて地元の人に流してほしい。環境省では観光という言葉を使わずにネイチャーツーリズムとかグリーンツーリズムと言う言葉を使って欲しい。

大林

環境省では観光のためのガイドマップではなく、自然再生を主要な目的としたガイドマップを作成するということを心得ている。

■今後の予定

事務局

第2期再生普及行動計画は、5年計画で進めており、今3年目を迎えている。次の11月の小委員会では、中間評価という形で議論していきたい。